成長を続ける八女市

八女市制施行元年

昭和29年4月1日

西鉄福島線（三井電車）の電車が撤廃される
　三井電車と呼ばれて親しまれ、土橋と日吉町（久留米市）の間を結んでいた西鉄福島線が、国道３号改良工事に先立つ昭和33年11月26日をもって廃止され、代わって西鉄の大型バスが運行されることになった。（八女）

昭和29年～
地域の思いが一つに

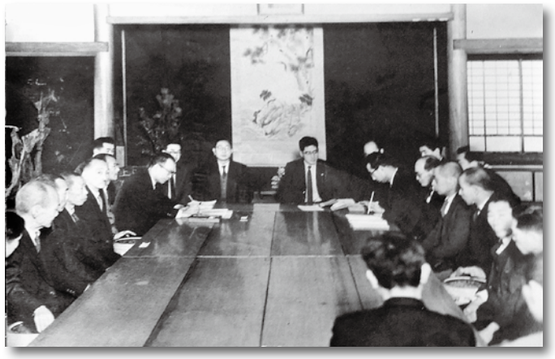
　日本の復興が進み、「もはや戦後ではない」といわれた昭和30年前後は、八女周辺でも町村合併の大きな動きがありました。昭和29（1954）年４月１日に、福島町、川崎村、忠見村、岡山村が合併し八女市が誕生します。そして、坂本繁二郎画伯が名誉市民に推挙されました。このあと坂本画伯は昭和31年に文化勲章を受章されています。同年、黒木町が豊岡村、串毛村、木屋村、笠原村を、さらに昭和32（1957）年には大淵村を編入し、新しい黒木町が生まれました。昭和30年には、光友村、北山村、白木村、辺春村が合併して立花町が、同33（1958）年には北川内町と横山村が合併して、上陽町が誕生しました。

　昭和30（1955）年には、大水害で流出した矢部川橋が完成。近代的な銀色の橋脚が話題になりました。昭和31（1956）年には、八女市で福岡県内初となる小学校全校完全給食が実現しました。昭和35（1960）年には、矢部村の日向神ダムが完成し、観光遊覧船が就航しました。昭和36（1961）年には、黒木町、矢部村、星野村の三森林組合で県下初の「八女森林組合共販所」を設立。各市町が個性を発揮しながらも、一体化を図る試みが始まりました。

昭和30年頃の土橋商店街（八女）

矢部川橋渡り初め　昭和30年９月
　昭和28年の大洪水で流出したものを二年間の歳月をかけて完工し、当時としてはトラス式の銀色の鉄橋は、近代的な光景であった。また、九州の大動脈でもある国道３号での催しに、式典には200名にのぼる参加者があった。（総工費は、当時の金額で6300万円）（立花）

日向神ダム建設（笹又地区）により校舎水没のため飯干小学校が移転
ダム水没前の笹又地区（矢部）



北川内町と横山村の合併調印式　昭和33年
　議員が見守る中、当時の小川百助町長（左）と井上常雄村長（右）が署名し上陽町が誕生した。（上陽）

日向神観光遊覧船就航　昭和35年（矢部）

県道八女・添田線全面開通　昭和37年
　浮羽・日田方面への交通が便利になった。（星野）

市制施行10周年記念　昭和39年
　小学校陸上大会が福島小学校グラウンドで行われ、市内各小学校児童が参加した。（八女）

木材をひく様子
　昭和30年代、当時、林業が盛んであった。「きんま（木馬）」とは、木材搬出用のソリのことで、馬や牛に木馬を曳かせていた時代であったが、今では機械化され木材搬出用としてはその姿を見ることはできない。

学生による奏楽の見送り　昭和30年代（矢部）